

2011 年東日本大震災・ 調査視察報告集  
その 8

様々な思いで被災地を訪ねた者たちによる  
同人誌的報告集

2012年4月1日

## まえがき

2011年9月までの2年間長期在外研究のため、カリフォルニア州立サンディエゴ大学に滞在しておられた関東学院大学経済学部中泉拓也准教授に「外国から見た東日本大震災」の記事をいただきました。いままでとはかなり異なる視点で「日本の大震災」を読み取ることが出来ました。個人的には、8年前に、第48次関東学院大学教職員組合の執行部のメンバーとしてともに働いたと言う縁で寄稿いただきました。

第2号に寄稿いただいた井上氏が東京（東京も災害地ではあるが）から激甚災害地を直接見ることなく思索されているのと同じように、距離的には遙かに遠い、太平洋の向こうで震災を見つめられて文章化されたことは、大変貴重であると思います。

インターネットの時代、情報は洪水のように、あるいは津波のように押し寄せるが、これを受け止め、その他の情報・体験も加えて、自分の思索によって整理したものを文章化し、これをまたインターネット上に流す、考えてみれば不思議な気もします。

井上氏が身近な生活の場から震災、特に原子力災害に関わる事柄を根源的に思索しようとしているのに対して、中泉氏は、異文化の中での体験を手がかりに整理しておられます。

現地に身を置いて書いた報告集にこのような寄稿をいただけたことに心から感謝します。

本報告集も第8号となりました。個別報告は一応本号で閉じ、近く執筆者の「この一年」を振り返る記事をまとめて、2011年東日本大震災・調査視察報告集の最終号とする予定であります。

学年末、新学期と大学、特に職員の方々は激務のシーズンであります。

いつも編集の労をとってくださっている大学図書館勤務の外崎さんの編集後記なしで発行いたしました。

(2012年4月1日)

(文責・楢木 紀男 [nabekinorio@yahoo.co.jp](mailto:nabekinorio@yahoo.co.jp))

# 海外から見た東日本大震災

中泉 拓也

## 0. はじめに

2009年8月から2011年9月まで在外研究+休職で米国カリフォルニア州立大学サンディエゴ校に在籍していました。その2年間全く帰国しなかったので、幸いにも東日本大震災を回避することが出来ました。

昨年9月に帰国してそれまでメディアとインターネットの情報でしか得られなかった大震災とその後の計画停電、節電の状況を人づてに聞くことが出来、やはり本当のところは体験した人しか解らないもので、8月のワシントンDCでの地震や9月のカリフォルニア大停電で何となく地震のイメージが得られた気分になっていた自分が恥ずかしいと感じています。

そのような状況で寄稿するのは心苦しいのですが、それでも海外諸国・海外メディアの対応から、海外での震災の扱われ方、海外から見た日本の印象等、個人的にも記録したい点が多くありますし、議事録がないことが大問題になっている現状ですので、この機会に投稿させて頂こうと考えた次第です。

## 1. 震災前から震災直後まで

一昨年のハイチ地震以降、チリ地震、ニュージーランドと大きな地震が続き、サンディエゴも結構地震が多く、少し気味が悪かったのは事実です。そんな中、震災が襲ってきた訳です。

昨年3月11日、米国時間の3月10日当日、震災が起こったことはyahoo newsで恐らく1時間以内に知ったと思います。震災はカリフォルニア時間の午後9時だったので、就寝前のインターネットのチェックでは確実に把握していました。そして、気仙沼や陸前高田に大津波が襲ってきた映像を目にし、とんでもないことが起こったと感じました。

特に衝撃的だったのは陸前高田の平野の最も奥にある酒屋までも津波で破壊された映像と、仙台市の若林区に家や瓦礫を飲み込みながら津波が田畑に押し寄せていった映像でした。気仙沼や石巻は言うに及ばず、八戸までも、三陸海岸の多くの町が津波で破壊される映像はその後深夜まで米国でも流され、翌日は夜の気仙沼の町が流れてきた重油で火の海になっていた映像が衝撃的でした。

震災直後にいつも参加している一橋の研究会の責任者の先生から、中止のメールが流れ、はっとおもって、知り合いに無差別にメールを出しました。こういうときの行動は半ば衝動的で、出し過ぎて不謹慎だという批判のメールをもらいましたが、それでもこういった行動をやってよかったと今でも思っています。こういうことに対して、日本では批判されることがしばしばですが、米国では聞いたことがありません。むしろ危機管理を優先するためには、こういう批判を押さえる

方が望ましいと思います。こういうことで批判されると思うと、どうしても萎縮し、行動が消極的になります。

そのときに多くのメールグループにメールを送ったのは、米国からの情報を得るだけでなく、友人のグループ間での連絡にも役立ったと思います。現在facebookに災害用伝言板が出来ましたが、これも同じような理由で、今後相当役に立つと思います。

また、震災直後、親切にも海外居住者向けに震災後の状況を連絡して下さった先生もいました。今から思っても生々しい雰囲気が伝わってきます。送信者である国立情報学研究所の曾根原先生の承諾を得たので、ここで掲載します。

米国カリフォルニア時間 2011年3月10日木曜日

23:13受信 (以下本文)

今、京都市役所です。

東京の方も大変なことになっています。

NIIの隣の毎日新聞社(九段会館:中泉補足)の5階の天井が落ちたそうです。

早く、東京に戻らないといけないのですが、新幹線が止まってしまい、どうにもならない状況です。

(1)東京の地下鉄「東京メトロ」は、全線で運転を見合わせています。東京メトロによりますと、停電などは起きておらず、駅と駅の間にいる電車については徐行で最寄りの駅まで向かっているということです。

(2)NHKが東京・港区に設置している屋外のカメラによりますと、東京の台場地区付近で黒い煙が立ちこめています。上空のヘリコプターから撮影した映像によりますと、燃えているのは台場地区のビルで、屋上付近から炎が上がっているのが確認できます。どのビルが燃えているのかはわかっていませんが、上空には黒い煙が大量に立ちこめています。

(3)3月11日 15時41分

JR東日本によりますと、首都圏の在来線の各線は、現在、すべて運転できなくなっています。路線によっては架線への送電が止まっているところもあり、駅と駅の間止まっている電車も数多くあるということです。

(4)東京消防庁によりますと、これまでのところ、墨田区、中央区、江東区大田区、豊島区、荒川区、足立区、八王子市で地震によるものとみられる火事があわせて8件起きているということです。現在、被害状況の確認を進めています。

(5)山陽新幹線は、東海道新幹線が運転を見合わせている影響で、これから順次、博多から新大阪に向かう上り線の運転を見合わせることにしています。新大阪から博多に向かう下り線は、運転を続けることにしてい

ます。

(6) 予想される津波の高さは▽大津波警報が出ている海岸では高いところで6メートル、▽津波警報が出ている海岸では、高いところで2メートルの見込みです。場所によっては津波は、さらに数倍の高さになることがあります。海岸や川の河口付近、海に近い川沿いにいる方は早く安全な高台に避難してください。海岸などに様子を見に行くのは大変に危険ですから控えてください。

その後都心では帰宅難民が500万人も発生したわけです。また津波に関する高さの推計の甘さも伝わってきます。翌日は原発が既に問題となってきます。翌日同じ先生から追加の情報を頂きました。

(米国カリフォルニア時間) 2011年3月12日土曜日 6:19 受信  
外国におられる方に送っています。

今も東北・関東では、余震が続いています。

今日も数回ありました。

私は、本日京都から自宅にかえりました。

新幹線は問題なかったのですが、品川駅は、昨日帰れなかった人たちが集まり、皆さん苛立っていることもあり、暴動状態でした。

1日半経ちましたが、まだ現地に入れず、被害の実態がつかめないというのが実情のようです。

#### (0) 地震の死者は1000人超に

地震と津波で岩手県や宮城県、福島県の沿岸部は壊滅的な被害を受け、東北を中心に、これまでに680人余りの死亡が確認されるなど、死亡した人は1000人以上になるとみられています。まだ現地に入れませんが、実態が分かるにつれて、被害は拡大するように思います。死因は、溺死だそうです。

(1) 宮城の南三陸町では、住民の半数の1万人と連絡取れないようです。まだ自衛隊が入れないようです。

今回の地震による津波で宮城県は、大きな被害を受けた南三陸町で町の人口の半分以上に当たる1万人と連絡が取れなくなっていると発表し、自衛隊の協力も得て、所在の確認を進めています。こちらも、交通システムが分断していて現地には入れないようです。

(2) 福島第一原子力発電所で爆発があったのですが、格納容器に損傷は無いようです。

枝野官房長官は、記者会見で、福島県の東京電力・福島第一原子力発電所で何らかの爆発があったことにつ

いて、建屋の壁が崩壊したもので、原子炉を収納している格納容器には損傷がなかったことを明らかにしました。今、海水を入れて（本当は真水なのですが）炉心を冷却するようです。周辺の20Km以内の住民は、区域外に避難しています。3人ほど、被爆量を調査したら、許容量の300倍のようです。

#### (3) 陸前高田 300?400人の遺体

津波により壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市で救助活動に当たっている自衛隊の隊員によりますと、市街地などでは300人から400人の遺体が確認されたということです。

#### (4) 被災支援 自衛隊5万人態勢に

今回の地震で各地で被害が拡大していることから、防衛省・自衛隊は、被災地で活動する部隊をこれまでの2万人から5万人態勢に増強して被災者の支援に当たることとしています。ただ、ヘリコプター位しか近づけないです。

以上メールの本文

また、震災直後の連絡で本当にありがたかったのは日本で住んでいたマンションの最上階近くに住んでいる友人がすぐskypeで連絡してくれたことでした。ひどい揺れだったことが察せられましたし、東京湾の向かいの市原の石油コンビナートの火災も見えました。それでも、うちのマンションも含め、基本的に都心は大丈夫だという確信ができ、その後狼狽えることはなくなりました。

後で知りましたが、当時太平洋側の震災で、日米間のインターネット海底ケーブルが5本のうち4本も切断されたそうです。残りの1本にうまく集中させることで、skypeの映像まで日米間で送ることが出来た訳です。さすがにskypeは大容量を使用するので、NTT関係の知り合いから注意されましたが。

結局殆ど徹夜で津波の映像を見てしまいました。また、3月いっぱいはこの件でどうしても他のことすべてに身が入らなくなってしまいました。

## 2. 米国メディアの採り上げ方

欧米は問題なければ他人のことはまず気にしないので、帰国後日本では他人のことを気にしすぎるのが非常に気になりました。日本では他人のことを非常に気にしないと行けないにもかかわらず、挨拶やコミュニケーションは少なく、孤独感は結構感じてしまいます。それに対して、米国では他人のことを基本的に気になくていいにも関わらず気軽にコミュニケーションが取れるので、気苦労はなくて、孤独感がない、これが米国滞在の最もすばらしかった点です。サンディエゴは気候もすばらしく、年中常春というより年中常秋と



いった感覚ですが、何よりもこの社会的なつながりに魅力を感じました。

ニュースの報道もなんとなくこの感覚があり、NHK がケーブルテレビに提供している番組プログラムのテレビジャパンを震災前から見ていましたが、米国のローカルニュースより米国のニュースが多く、英語が不得意だった滞在前半は結構参考になりました。それでも何でこんなに米国のニュースが多いんだろうという疑問を持っていた訳です。

逆に米国は他国のニュースは殆どなく、それどころか CNN がカリフォルニアを題材にすること自体ほとんどありませんでした。時差の関係もあり、地方のニュースがしょっちゅう流れる日本のニュースに慣れている私は、カリフォルニア在留当初、世界から取り残された、寂しさに襲われました。

当然のことながら、日本のニュースは通常、全くといっていいほどありません。欧州の情報もウィリアム王子とキャサリン妃の結婚ぐらいしか得られないほどです。そういった事情なので、震災もそんなには放映されないと思っていました。

ところが、その米国メディアが震災直後から一斉に東日本大震災に関するニュースを放映し始めました。これほど日本が映像メディアに取り上げられたのは恐らく史上初めてではないでしょうか。

特に当時リビアが深刻な事態になっていたのに、CNN がその題材を割愛してまで放映するとは正直思っていませんでした。米国メディアの取り上げ方は本腰を入れた真剣なもので、ABC New の Diane Sawyer や CNN AC360 の Anderson Cooper といった有名キャスターが被災地まで乗り込んできました。また、日本のメディアよりも映像が生々しく、衝撃的な映像で気分が悪くなったことも記憶しています。

CNN の web サイトに震災の写真が掲載されています。写真も日本のメディアと異なる感覚で撮影されていて、日米の相違が伝わるといいます。以下の URL を参照ください。

Photos: Earthquake rocks Japan - CNN.com  
<http://edition.cnn.com/interactive/2011/03/world/hires.japan.quake/index.html>

また、殆ど日本の取材はしていないはずなのに CNN を中心にかなり核心を突いていたことには感心しました。例えば東電の隠蔽体質については、当初から批判していました。ただ、原発の問題が深刻になると、CNN 以外は放送の拠点を大阪に移してしまい、日本人が見るとかなり滑稽になってしまいました。タクシーの運転手が「ここまでくるとようわかりまへんがわてらも放射能はこわいでっせ。」というのを英訳して放映していたのは笑えました。

その中でも、CNN は東京にとどまって正確な情報を伝えていました。Anderson といっしょに日本に来

て、しばらくとどまって放送を続けた Sanjay Gupta は、放射能汚染についても非常に冷静に解説し、無用な不安を世界が持つのを防ぐように伝えてくれていました。彼はそれまでも質の高い放送をしていましたが、このときは本当に感謝したものです。

ところで、米国のメディアが原発関連で問題にしていたことの一つに、以下のようなコミュニケーションギャップがあると思います。というのは、恐らくコミュニケーションの世界標準は、どんなに非難されることがあったとしても、自己弁護する際には、出来るだけ自分の主張や正当性を声高に主張することでしょう。その際にどんなにでたらめや嘘をまくしたててもです。ところが日本では厳しい追及を出来るだけ避け、自己主張をせずに、いかにはぐらかすかに重点を置きます。このコミュニケーションギャップに関しては CNN でもそうとうやり玉にあがっていました。そういう根本的な態度の違いもかなり欧米のメディアに不信感を与えた理由だと思います。上述のように CNN は東電が隠蔽体質を非難していましたが、特に 4 号炉の使用済み燃料棒の保管庫に水がたまっているかどうかに関する日米政府の見解の相違について、以下のようにキャスターの Anderson が政府のスポークスマンにインタビューしたことがあります。

Video: Spokesman defends Japanese government ?  
 Anderson Cooper 360 - CNN.com Blogs  
<http://ac360.blogs.cnn.com/2011/03/17/video-spokesman-defends-japanese-goverment/>

インタビューの中盤で、Anderson が 4 号炉の使用済み燃料棒の保管庫に水がたまっているかどうか日本政府から情報が出ないで、米国から出ているのは何故かと質問したのに対して、日本のスポークスマンは「米国の話は良く承知していないが、菅総理がオバマ大統領と電話会談し、米国からも支援の申し出があった」と、全く質問と違う点を応えていました。それについて、米国のコメンテーターもこういうはぐらかしが多くてコミュニケーションが取れないと番組でさんざん批判していました。

これは、恐らく日本のスポークスマンが当日の官房長官の以下のようなコメントを間違えて反映したものだと思います。というのは、官房長官が記者の同じような質問に対して、現在米国と協議中だが、米国からも支援の申し出があったとコメントしていたからです。スポークスマンは、その「現在米国と協議中だが」という質問のむしろ答えになる部分を言わず、世界に恥をさらした格好になってしまいました。

4 号機のプールの水が干上がっているかについて、米国政府は非常にこだわっていましたが、その後杞憂であることが証明されました。最近報告書が出た民間事故調査委員会(福島原発事故独立検証委員会)によって、4 号機のプールの水が干上がっている可能性があるという情報は東電の技術者との私的なつながりによ

ってもたらされたものであることが明らかにされました。この情報によって、米国では日本より広い50マイルという非難区域が設定され、その中に入ってしまったいわき市では米軍の援助も受けられずガソリンさえ枯渇し、一時期悲惨な状況が発生しました。これも、これも日米の公式なコミュニケーションが枯渇したことによる悲劇の一つと考えなければなりません。

### 3. 米国での反応

サンディエゴは軍の町で、米国でも西海岸1番の海軍基地や海兵隊の基地があります。その関係で米軍の東日本大震災支援作戦である Tomodachi 作戦やそれに関する報道はローカルニュースでも多く採り上げられました。

カリフォルニアは地震も多く、地震の怖さを理解している人もおり、娘の幼稚園の先生などは自分のことのように心配してくれました。元来キリスト教的な精神が強いこともあり、多くの人から温かい言葉をもらいました。昨年5月頃に、カリフォルニアのディズニールランドで全く見ず知らずの黒人の親から、いきなり日本は大丈夫かと言われました。日本だとかなり違和感ですが、米国ではあたり前の会話です。滞在している UCSD の学生さんも、募金活動やボランティア活動をひたむきに行い、現地のチャリティーバザー等に参加もしました。ノーベル賞を受賞した鈴木先生のサンディエゴ講演が偶然震災直後にあり、急遽会費が全額被災地に寄付されることになりました。

UCSD の国際センターでは日本人同士の交流の場を設けてもらいました。特に理科系が専門の先生と原発の深刻さについてディスカッションを行なったことも大変参考になりました。特に気になったことは、チェルノブイリの避難の基準が年間5ミリシーベルトであると教わったことです。この基準では福島や二本松市まで避難しなければならないことになります。財産の保全を考えると難しい問題かもしれませんが、それが行われないことにいまだに疑問を持たざるを得ません。

### 4. 原発対応

震災直後、後述する正常性バイアス（問題ないという思い込み）が働き、原発については問題ないという思い込みがありました。3月12日の水素爆発以降でさえ、格納容器が壊れていないなら安全だと思い込んでしまった気がします。3月12日の日経新聞電子版には炉心溶融や格納容器の損傷の可能性が記事になり、水素爆発前後にはメルトダウンの可能性も指摘され、そうだと思いました。しかし、その後逆に全く情報が統制され、全く情報が伝わらなくなりました。この状況は日本と同じだと思います。米国側は上記の記事を踏襲した格好になり、メルトダウンを前提に行動していました。

深刻な事態は震災後何ヶ月も経ってから明らかにされました。2号機がベントも出来なかったというところでもない問題も、また2号機から放射性物質が漏れだ

し、最も大量の放射能物質の放出になった自体も、帰国した後の NHK スペシャルで知ったほどです。

今思えばベントが出来ずに格納容器がよく大爆発せず、一部からの漏洩で済んだなと思ってしまいます。

米国側の情報も少なく、米国では4号機の使用済み燃料プールの水が干上がっているかどうかを心配し、その確認を再三日本政府に求めていました。

調査委員会の報告書によるとこれは東電の技術者の漏らした言葉に左右されてしまった結果だと言うことです。しかし、この結果米国は80キロメートル立ち入り禁止とし、いわきでは米国の支援が得られず重病者が多くなくなるという悲劇が起きたのは前日の通りです。

最近の調査報告書は東電が協力していないため、本当に知りたいところが全く出てきていないのが残念です。特に、

- 1) 原発の炉心が既に壊れてはいなかったかどうか。
- 2) 電源車を用意しても電源が回復しなかったのは、単にプラグが合わなかったのか、そもそも津波等で冷却装置がこわれたのか、
- 3) 3号機の水素爆発や2号機からの放射能漏れは防げなかったのか。

といった点です。今後の解明に期待したいところです。

### 5. ワシントンの地震やカリフォルニアの大停電

東日本大震災を免れたにもかかわらず、米国のワシントンで地震に、カリフォルニアでは大停電に巻き込まれました。ワシントンでのこの規模の地震は60年ぶりです。カリフォルニアは発送電分離の影響で結構停電あることが知られていますが、それでも2年間の滞在で2回しか停電しなかったのですが、停電すると夜更けまで停電して結構困りました。先ず、地震ですが、米国の首都ワシントンで23日の昼、連邦予算管理局(Office of Management and Budget OMB)の役人と昼食をとりながら、ヒアリングをしていました。すると地震が起きたわけです。日本で慣れている私はすぐ地震とわかり、震度3くらいでたいした事が無いと思い、ほとんど気にもとめませんでした。

ところが耐震設計ではない東海岸の建物は地震に弱いようで、モールの電気が停電したのには驚きました。また、建物も日本のようにしなるという感じでなく、柱がずれてしまいそうなのには恐怖を感じました。



建物内の人もほとんど屋外に避難したので、インタビューも切り上げて外に避難しました。ワシントンだと、地震直後はテロ攻撃の可能性も否定できない事と、危機管理が徹底しているという事もあると、連邦政府の役人はほとんど道ばたで待機していました。写真はその際に撮ってもらったものです。その後地下鉄も動かずすこし焦りましたが、1時間ほどして平静を取り戻し始め、連邦政府の役人も仕事に戻り始めたので、残りのスケジュールもこなして帰りの飛行機にも間に合いました。

このとき、最も痛感したのは、NHK スペシャルで取り上げられていた正常性バイアスをまさに自分にも感じたことです。

NHK スペシャル | 巨大津波 その時ひとはどう動いたか

<http://www.nhk.or.jp/special/onair/111002.html>

ポイントは、地震の後、津波が到達するまでの約1時間、①人々は逃げることをせず普段どおりの生活をしようとし＝正常性バイアス、②いざ避難となれば避難することを固辞した人までも説得するのに貴重な時間を喰い、自分の命を落とし＝愛他行動、③避難所の校庭で大丈夫だとタカをくくるといふ、みなと同じ行動をとり＝同調バイアス、結果、時間的余裕は逃げる行動にはつながらなかったということです。その結果、番組で取り上げられた宮城県名取市の閑上地区では6人に一人が津波の犠牲になってしまいました。

特に日本の感覚で大丈夫だと思い込んでしまい、待避しなければならぬという感覚がとっさに出てこなかったことを反省しています。このようなとき、やはり過去の経験や年齢を重ねることがむしろ桎梏になります。釜石では、小学生が先頭に立って避難し、老人を誘導することで、多くの老人を津波から救った話がクローズアップ現代で放映されていました。考えさせられてしまいます。

子どもが語る大震災(2) - NHK クローズアップ現代

[http://cgi4.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail.cgi?content\\_id=3142](http://cgi4.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail.cgi?content_id=3142)

その2週間程度後には、カリフォルニアの大停電にも遭遇しました。友人の家で設けられた送別会は、暗闇の中となりました。震災時に必要な懐中電灯や非常食等がそろっていなかったことにも気がつかされてしまいました。ただ、現代社会の一流文明国でも停電がおき、それでも社会が問題なく回っていくことが参考になるかもしれません。

## 6. 帰国後の印象

原発への対処の失敗は、日本の社会的、制度的な問題も浮き彫りにさせたと思います。重要な情報を政府が

出さず、適切なリーダーシップも発揮出来ず、想定外の事が起こりえないことにすり替えられてしまった現状は、ミッドウエーの敗戦以降の太平洋戦争中にそっくりな気がします。

私の中高教育で教えられた太平洋戦争中の日本の状況は、もっと軍の強圧的な管理のイメージが強かったのですが、むしろ現在の状況に似ているのではと思うようになりました。東電の責任を誰も問わずに、自発的に節電しようとしている庶民の動きが戦時中の状況に似ているのではと思います。

特に、空気に支配される日本の状況を如何に改善するかが、帰国したあとの最大の研究課題です。空気の研究と言うとなんの話と思われると思いますが、山本七平「空気の研究」が発端で、以下の東大教授の森田先生の解説が大変参考になります。

メディア情報：「空気」の研究 森田朗 (NHK「視点・論点」) 東京大学 政策ビジョン研究センター  
[http://pari.u-tokyo.ac.jp/media/tv\\_nhk100914.html](http://pari.u-tokyo.ac.jp/media/tv_nhk100914.html)

震災から数ヶ月は、太平洋戦争中のミッドウエー海戦での敗北以降に見え、帰国するのがかなりおっくうでした。実際夏場の節電以前は、相当異様な空気が張りつめていたと聞きました。夏場の節電が終わってから帰国したのはその意味で正解でした。

帰国後、絆という言葉が注目されたこともあり、正直帰国前より人々が親切になったのではと感じてほっとしました。

## 7. 心に残る逸話

暗い話が多い震災ですが、心に残る感動的な話も多くありました。私が印象に残っている3つの話を紹介します。まずは以下の大船渡市の市議の話です。以下朝日新聞の Web page より。

asahi.com (朝日新聞社) : 市議の「遺言」、非常通路が児童救う 津波被害の小学校 - 社会

<http://www.asahi.com/national/update/0329/TKY201103290249.html>

岩手県大船渡市の海沿いの小学校に、津波から逃れる時間を短縮する非常通路をつけるよう提案し続けていた市議がいた。昨年12月、念願の通路ができた。市議は東日本大震災の9日前に病気で亡くなったが、津波にのまれた小学校の児童は、通路を通して避難し、助かった。

第2は、鉄道ファンの私から見ると映画化されてもいいほど感動的な話です。NHK ニュース おはよう日本(2011/3/27) 磐越西線 石油輸送が詳しいのですが、WEBの画像はすべて削除されているようで、以下のwebにやや詳しい解説があります。震災直後は石油の枯渇が被災地で著しく、被災地に石油を輸送するのが



喫緊の課題でしたが、東北本線が寸断され、道路も公用車以外は通行規制がある状態で、新潟から磐越西線を使って石油輸送をした話です。しかし、磐越西線は非電化区間のため、DD51 ガソリン輸送車を日本全国から集めてきたそうです。それでも峠の難所で立ち往生し、応援の車両を呼んで、なんとか郡山までたどりついたそうです。

DD51 ガソリン輸送のニュース ちっぽけなワン  
<http://fura55.blog38.fc2.com/blog-entry-780.html>

最後は、東日本大震災に際し多大な支援を行ってくれた台湾に感謝の気持ちを伝えるため、沖縄から台湾までの110kmを泳いで渡るという「日台黒潮泳断チャレンジ」。

義援金の金額は台湾が世界で最も多かったにもかかわらず中国に媚びたい民主党政権は中国にはそれを感謝したのに、台湾には直接感謝を表明していないということで、個人的にかなり頭にきているのですが、この企画を企画した鈴木さんもそれが企画理由の一つだとおっしゃっていました。

日台黒潮泳断チャレンジ 2011  
<http://strongheart.jp/nittai-sc/index.php>

この話、台湾まで泳ぐというだけの話のはずなのに、何でこんなに感動するのかわからない程、感動してしまいます。ほんとになんでこんなに感動するのかわからないです。

## 8. 終わりに

帰国後、いろいろな話を聞きました。情報がなく、メディアの原稿の採り上げ方が日本国内の方が甘かったこと、震災直後はものがなくて困ったこと、悪臭がひどく、被災地はテレビでみるよりももっとひどいといったことです。

その中で、もっとも重要だと思ったのは、NHKがとりあげていた戦後復興に携わり津波で被災した釜石の復興に助言している方の話です。釜石は製鉄の町のため、終戦直前に米国戦艦の艦砲射撃で、完膚なきまでに破壊されたそうです。しかし、復興は早く、3年ほどで、高炉に再び火がともったそうです。そのような素早い戦後復興が出来た理由として、その方が最も重要とおっしゃっていたのは、個人の自立です。戦後復興のときは自主的に復興を行ったのですぐに復興したが、いまは国の指示待ちで更に指示も出ないのでこうに復興が進まないと言をていしておられました。

大学時代の1989年に東北を夏休み1ヶ月かけて旅行した際、陸前高田や石巻にも立ち寄りました。特に陸前高田は夏祭りも観ることができ、市街地や海辺を広く歩いたのを覚えています。親潮の影響で夏も涼しく、ファンになった場所の一つです。いまは一日も

早い復興を願うばかりですが、今後は一息ついたら、ボランティアに参加して、もう一度陸前高田を訪れたいと考えている次第です。

最後に最近公表されたIMF(国際通貨基金)の日本人有志の震災への思いをつづったビデオをご覧ください。知り合いということも有りますが、私が滞在したUCSDでも同じような状況になりましたので、共感が持てました。

Thinking of Home: Japanese staff at the IMF - YouTube  
<http://www.youtube.com/watch?v=YjiQ1f4gNhA&feature=share>

## 参考 URL

Photos: Earthquake rocks Japan - CNN.com  
<http://edition.cnn.com/interactive/2011/03/world/hires.japan.quake/index.html>

Video: Spokesman defends Japanese government ?  
Anderson Cooper 360 - CNN.com Blogs  
<http://ac360.blogs.cnn.com/2011/03/17/video-spokesman-defends-japanese-goverment/>

福島原発事故独立検証委員会  
<http://rebuildjpn.org/fukushima/about/kitazawa>

NHK スペシャル | 巨大津波 その時ひとはどう動いたか  
<http://www.nhk.or.jp/special/onair/111002.html>

子どもが語る大震災(2) - NHK クローズアップ現代  
[http://cgi4.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail.cgi?content\\_id=3142](http://cgi4.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail.cgi?content_id=3142)

山本七平「空気の研究」  
メディア情報: 「空気」の研究 森田朗 (NHK「視点・論点」) 東京大学 政策ビジョン研究センター  
[http://pari.u-tokyo.ac.jp/media/tv\\_nhk100914.html](http://pari.u-tokyo.ac.jp/media/tv_nhk100914.html)

asahi.com (朝日新聞社): 市議の「遺言」、非常通路が児童救う 津波被害の小学校 - 社会  
<http://www.asahi.com/national/update/0329/TKY201103290249.html>

DD51 ガソリン輸送のニュース ちっぽけなワン  
<http://fura55.blog38.fc2.com/blog-entry-780.html>

日台黒潮泳断チャレンジ 2011  
<http://strongheart.jp/nittai-sc/index.php>

Thinking of Home: Japanese staff at the IMF - YouTube  
<http://www.youtube.com/watch?v=YjiQ1f4gNhA&feature=share>